

登録販売者試験

問題集

令和7年版

中国・四国編

(島根・鳥取・岡山・広島・山口・香川・愛媛・高知)

◆厚生労働省「試験問題の作成に関する手引き

(令和4年3月作成、令和6年4月一部改訂)」対応

目次

☑ 1. 令和6年度(2024年)	問題	5
	正解&解説	36
☑ 2. 令和5年度(2023年)	問題	46
	正解&解説	74
☑ 3. 令和4年度(2022年)	問題	84
	正解&解説	114
☑ 4. 令和3年度(2021年)	問題	124
	正解&解説	153

● 本書の使い方 ●

①本書は、各都道府県が行う登録販売者試験のうち、中国・四国ブロック（島根・鳥取・岡山・広島・山口・香川・愛媛・高知）で実施された過去4年分（令和6年度～令和3年度）を、年度ごとに「問題」と「正解&解説」にまとめたものです。※令和2年度以前の問題に関しては、中国エリアと四国エリアとでブロックが統合されていなかったため、近年の問題と比べて出題傾向が異なることから掲載は省きました。

②試験問題は、午前60問、午後60問の計120問出題され、その内容は以下の5項目に分かれています。

1. 医薬品に共通する特性と基本的な知識	20問	午前
2. 人体の働きと医薬品	20問	
3. 薬事に関する法規と制度	20問	
4. 主な医薬品とその作用	40問	午後
5. 医薬品の適正使用と安全対策	20問	

③「正解&解説」には公表されている正解と、出題範囲である「試験問題の作成に関する手引き」を参考に弊社が作成した解説を掲載しています。一問ごと、各選択肢ごとに解説しているため、わからなかった問題や間違ってしまった問題は、解説を参考に繰り返し解いていくことで苦手部分を集中的に学習し、また、関連する事項も合わせて対策をとることができます。問題の左端に付いている☑は、正しく答えることができたかどうかのチェックマークなどに活用してください。

※正しい選択肢に関しては、選択肢そのものが答えになる場合、解説を省略しています。

④本書発行後「試験問題の作成に関する手引き」の内容に変更があった場合には、公論出版ホームページ（<https://www.kouronpub.com>）にて、本書の内容に関わるものについて掲載します。ご確認ください。また、万が一本書の内容に訂正等が生じた場合も、ホームページにてご案内いたします。



⑤本書の内容でわからないことがありましたら、**必要事項を明記の上**、下記までお問い合わせください。

※お問い合わせは、**本書の内容に限ります**。

※回答までにお時間がかかる場合がございます。あらかじめご了承ください。

※必要事項に記載漏れ等があると、お答えできない場合がございます。ご注意ください。

※キャリアメールをご使用の場合、下記メールアドレスの受信設定を行なってからご連絡ください。

本書に関するお問い合わせ

メール



inquiry@kouronpub.com

問合せフォーム



FAX



03-3837-5740

必要事項

・お客様の氏名とフリガナ
・書籍名
・FAX番号（FAXの場合のみ）
・該当ページ数
・問合せ内容

※電話でのお問い合わせは、受け付けておりません。

令和6年12月
登録販売者試験 担当編集部

● 受験ガイド ●

1. 登録販売者とは

医薬品の販売業務は、薬剤師又は登録販売者でなければ行うことができません。登録販売者は、一般用医薬品のうち、第二類医薬品と第三類医薬品を販売できる資格です。

2. 登録販売者試験の受験資格

学歴、実務経験を問わないため、誰でも受験することができます。

3. 登録販売者試験について

● 試験地

①毎年、通常1回、各都道府県ごとに実施されます。また、年度によりブロックが変更になる場合があります。

[北海道・東北] 北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島
[北関東・甲信越] 茨城・栃木・群馬・山梨・長野・新潟
[南関東] 東京・埼玉・千葉・神奈川
[北陸・東海] 富山・石川・岐阜・静岡・愛知・三重
[奈良]
[関西広域連合・福井] 滋賀・京都・大阪・兵庫・和歌山・徳島・福井
[中国・四国] 島根・鳥取・岡山・広島・山口・香川・愛媛・高知
[九州・沖縄] 福岡・大分・宮崎・鹿児島・熊本・佐賀・長崎・沖縄

②試験の日時・場所・申込方法等は、4月以降、各都道府県のホームページ等に掲載されます。

③どの都道府県でも受験可能です。また、1つの都道府県で合格すると、勤務地となるどの都道府県でも販売従事登録を受け、登録販売者として働くことが可能です。

● 試験出題内容

厚生労働省作成の「試験問題の作成に関する手引き」から、各ブロックごとに試験問題が出題されます。マークシート方式の筆記試験で、全120問（午前2時間で60問、午後2時間で60問）で、その内訳は次のとおりです。

試験科目	手引き	配点	試験時間
医薬品に共通する特性と基本的な知識（20問）	1章	20点	午前（10：00～12：00） 2時間
人体の働きと医薬品（20問）	2章	20点	
薬事に関する法規と制度（20問）	4章	20点	
主な医薬品とその作用（40問）	3章	40点	午後（13：30～15：30） 2時間
医薬品の適正使用と安全対策（20問）	5章	20点	
合計（120問）		120点満点	

● 合格基準

中国・四国ブロックにおける配点は、1問1点とし、以下2つの基準の両方を満たすと、合格となります。

- | |
|--|
| 1. 総出題数（120問）に対する正答率が7割以上（84点以上）であること。 |
| 2. 試験項目ごとの出題数に対する正答率が4割以上であること。 |

— 午前の部 —

〔医薬品に共通する特性と基本的な知識〕

【1】医薬品の副作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a. 主作用以外の反応であっても、特段の不都合を生じないものであれば、通常、副作用として扱われることはない。
- b. 副作用は、発生原因の観点から薬理作用によるものとアレルギー（過敏反応）によるものに大別することができる。
- c. 眠気や口渇等の比較的良好に見られる症状は、副作用とはいわない。
- d. 一般用医薬品の使用にあたっては、通常、重大な副作用よりも、その使用を中断することによる不利益を回避することが優先される。

	a	b	c	d
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 誤	誤	正	誤
	2. 正	正	誤	誤
	3. 正	誤	誤	正
	4. 正	誤	正	正
	5. 誤	正	誤	正

【2】いわゆる健康食品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a. 機能性表示食品は、疾病に罹患した者の健康維持及び増進に役立つ機能を表示できる。
- b. 栄養機能食品は、国が定めた規格基準に適合したものであれば、その食品に含まれるビタミン、ミネラル等の栄養成分の健康機能を表示できる。
- c. 健康食品は、安全性や効果を担保する科学的データの面で医薬品と同等のものである。
- d. 健康食品は、健康増進や維持の助けになることが期待されるが、医薬品とは法律上区別される。

	a	b	c	d
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 誤	正	誤	正
	2. 正	正	誤	正
	3. 誤	誤	正	正
	4. 正	正	正	誤
	5. 正	誤	誤	誤

【3】他の医薬品や食品との相互作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a. 外用薬や注射薬であっても、食品によって医薬品の作用や代謝に影響を受ける可能性がある。
- b. 相互作用は、医薬品が薬理作用をもたらす部位において起こり、医薬品が吸収、分布、代謝、又は排泄される過程では起こらない。
- c. 酒類（アルコール）をよく摂取する者では、肝臓の代謝機能が弱まっていることが多く、その結果、アセトアミノフェンが通常よりも代謝されにくくなる。
- d. 相互作用による副作用のリスクを減らす観点から、緩和を図りたい症状が明確である場合には、なるべくその症状に合った成分のみが配合された医薬品を選択することが望ましい。

	a	b	c	d
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 正	誤	正	正
	2. 誤	誤	正	誤
	3. 正	正	誤	誤
	4. 誤	正	正	正
	5. 正	誤	誤	正

【4】医薬品のリスク評価に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a. ヒトを対象とした臨床試験の実施の基準には、国際的に Good Vigilance Practice (GVP) が制定されている。
- b. 医薬品の効果とリスクは、用量と作用強度の関係（用量－反応関係）に基づいて評価される。
- c. 新規に開発される医薬品のリスク評価として、毒性試験が厳格に実施されている。
- d. 動物実験により求められる50%有効量は、薬物の毒性の指標として用いられる。

<input checked="" type="checkbox"/>	1. a、b	2. a、c	3. a、d
	4. b、c	5. b、d	

医薬品に共通する特性と基本的な知識

【1】正解＝2 [a. 正 / b. 正 / c. 誤 / d. 誤]

- a. ただし、好ましくないものについては一般に副作用として扱う。
- c. 副作用は、眠気や口渇等の比較的よく見られるものから、日常生活に支障を来す程度の健康被害を生じる重大なものまで様々である。
- d. 通常はその使用を中断することによる不利益よりも、**重大な副作用を回避**することが優先される。

【2】正解＝1 [a. 誤 / b. 正 / c. 誤 / d. 正]

- a. 機能的表示食品は、機能的表示食品は、事業者の責任で科学的根拠をもとに疾病に罹患していない者の健康維持及び増進に役立つ機能を表示できる。
- c. 健康食品は、法的にも、安全性や効果を担保する科学的データの面で**医薬品とは異なる**。

【3】正解＝5 [a. 正 / b. 誤 / c. 誤 / d. 正]

- b. 相互作用には、医薬品が吸収、分布、代謝（体内で科学的に変化すること）又は排泄される過程で起こるもののほか、薬理作用をもたらす部位において起こるものがある。
- c. アルコールは、主として肝臓で代謝されるため、酒類（アルコール）をよく摂取する者では、肝臓の代謝機能が**高まっている**ことが多い。また、その結果として肝臓で代謝されるアセトアミノフェンなどでは、通常よりも代謝されやすくなる。

【4】正解＝4 [b と c が正しい]

- a. Good Vigilance Practice (GVP) は医薬品の製造販売後安全管理の基準として制定されている。一方で、ヒトを対象とした臨床試験の実施の基準には、国際的に Good Clinical Practice (GCP) が制定されている。
- c. なお、毒性試験は医薬品毒性試験法ガイドラインに沿った様々な試験が実施されている。
- d. 動物実験により求められる**50%致死量 (LD₅₀)**は、薬物の毒性の指標として用いられる。

【5】正解＝1 [a. 正 / b. 正 / c. 正 / d. 誤]

- b. 製造物責任法（平成6年法律第85号）はPL法とも呼ばれ、製造物の欠陥により、人の生命、身体、財産に係る被害が生じた場合における製造業者等の損害賠償の責任について定められた法律である。
- d. 医薬品は、人の疾病の**診断、治療若しくは予防**に使用されること、又は人の身体の構造や機能に影響を及ぼすことを目的とする生命関連製品であり、その有用性が認められたものを指す。

【6】正解＝5 [a. 誤 / b. 正 / c. 誤 / d. 誤]

- a. おおよその目安として、次の年齢区分が用いられている。新生児：生後4週未満、乳児：生後4週以上、1歳未満、**幼児：1歳以上、7歳未満**、小児：7歳以上、**15歳未満**。
- c. 保護者等に対して、成人用の医薬品の量を減らして小児へ与えるような安易な使用は避け、**必ず年齢に応じた用法用量が定められているものを使用**するよう説明がなされることも重要である。
- d. 幼児は血液脳関門が**未発達**であるため、吸収されて循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に**達しやすい**。そのため、中枢神経系に影響を与える医薬品で副作用を起こしやすい。

【7】正解＝4

- 高齢者であっても基礎体力や生理機能の衰えの度合いは**個人差が大きく**、年齢のみから一概にどの程度リスクが増大しているかを判断することは**難しい**。
- 一般に高齢者は生理機能が衰えつつあり、特に、肝臓や腎臓の機能が低下していると医薬品の作用が強く**現れやすい**。また、若年時と比べて副作用を生じるリスクが高くなる。
- 高齢者は、持病（基礎疾患）を抱えていることが多いため、複数の医薬品が長期間にわたって使用される場合には、副作用を生じるリスクも**高い**。

【8】正解＝5 [b と d が正しい]

- a. 胎盤には、胎児の血液と母体の血液とが**混ざらない**仕組み（血液—胎盤関門）がある。
- c. 一般用医薬品において多くの場合、妊婦が使用した場合における安全性に関する**評価が困難**であるため、妊婦の使用については「**相談すること**」としているものが多い。

【9】正解＝2 [a と c が正しい]

- b. プラセボ効果（偽薬効果）は、医薬品を使用したとき、結果的又は偶発的に**薬理作用によらない作用**を生じることをいう。
- d. プラセボ効果によってもたらされる反応や変化には、望ましいもの（効果）だけでなく、**不都合なもの（副作用）**もある。

【10】正解＝1 [a. 正 / b. 誤 / c. 正]

- b. 医薬品の販売等に従事する専門家は重要な情報提供者であり、薬物療法の指導者となることを**常に意識して活動することが求められる**。

【11】正解＝3 [a. 正 / b. 正 / c. 誤 / d. 正]

- c. 普段は医薬品にアレルギーを起こしたことがない人でも、病気等に対する抵抗力が低下している状態など場合には、医薬品がアレルゲンになることがあり、**思わぬアレルギーを生じることがある**。

— 午前部 —

〔医薬品に共通する特性と基本的な知識〕

【1】医薬品の本質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a. 医薬品は、人の疾病の診断、治療若しくは予防に使用されるなど、有用性が認められたものであり、保健衛生上のリスクは伴わない。
- b. 一般用医薬品については、医療用医薬品と比較すれば保健衛生上のリスクは相対的に低いいため、リスク区分の見直しが行われることはない。
- c. 一般用医薬品の販売には、専門家の関与は必要ない。
- d. 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（昭和35年法律第145号）では、異物等の混入、変質等がある医薬品を販売等してはならないと定めている。

	a	b	c	d
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 正	正	誤	誤
	2. 正	誤	誤	正
	3. 誤	誤	誤	正
	4. 誤	正	正	正
	5. 正	誤	正	誤

【2】医薬品に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1. 医薬品は、使用方法を誤ると健康被害を生じることがある。
- 2. 一般用医薬品には、製品に添付されている文書（添付文書）や製品表示に、購入者等が適切に使用するために必要な情報が記載されている。
- 3. 医薬品の投与量と効果の関係は、薬物用量の増加に伴い、効果の発現が検出されない「無作用量」から、「最小有効量」を経て「治療量」に至る。
- 4. 新規に開発される医薬品は、医薬品の効果に関する臨床試験の基準である Good Laboratory Practice (GLP) に沿って色々な試験が実施されている。

【3】いわゆる健康食品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a. 古くから特定の食品摂取と健康増進との関連は関心を持たれてきた。
- b. 「特定保健用食品」は、個別に特定の保健機能を示す有効性や安全性などに関する国の審査を受け、許可されたものである。
- c. 健康食品においても、誤った使用方法や個々の体質により健康被害を生じることがある。
- d. 健康食品は、カプセル、錠剤等の医薬品と類似した形状では販売されていない。

	a	b	c	d
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 正	誤	誤	誤
	2. 誤	誤	正	正
	3. 誤	正	誤	正
	4. 誤	正	正	誤
	5. 正	正	正	誤

【4】薬理作用やアレルギーに関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a. 医薬品の有効成分である薬物が生体の生理機能に影響を与えることを薬理作用という。
- b. アレルギーは、医薬品の薬理作用等とは関係なく起こり得るものである。
- c. 医薬品にアレルギーを起こしたことがない人は、医薬品がアレルギーを引き起こす原因物質（アレルゲン）になることはない。
- d. 医薬品の中には、鶏卵や牛乳等を原材料として作られているものもあるが、製造工程で除去されるため、それらに対するアレルギーがある人でも使用を避ける必要はない。

<input checked="" type="checkbox"/>	1. a、b	2. a、c	3. a、d
	4. b、c	5. b、d	

医薬品に共通する特性と基本的な知識

【1】正解＝3 [a. 誤 / b. 誤 / c. 誤 / d. 正]

- a. 医薬品は、人の疾病の診断、治療若しくは予防に使用されるなど有用性が認められたものであるが、使用には、保健衛生上のリスクを伴う。
- b. 一般用医薬品は、市販後にも、医学・薬学等の新たな知見、使用成績等に基づき、その有効性、安全性等の確認が行われる仕組みになっており、それらの結果を踏まえ、リスク区分の見直しがされる。
- c. 一般用医薬品の販売には、購入者等が、一般用医薬品を適切に選択し、適正に使用するため、その販売に専門家の関与が必要である。

【2】正解＝4

- 4. 新規に開発される医薬品は、Good Laboratory Practice (GLP) の他に、**医薬品毒性試験法ガイドライン**に沿って、様々な**毒性試験**が実施されている。

【3】正解＝5 [a. 正 / b. 正 / c. 正 / d. 誤]

- d. 健康食品は、その多くが摂取しやすいように錠剤やカプセル等の医薬品に類似した形状で**販売されている**。

【4】正解＝1 [a と b が正しい]

- c. 普段は医薬品にアレルギーを起こしたことがない人でも、病気等に対する抵抗力が低下している状態などの場合には、医薬品がアレルゲンになることがあり、思わぬ**アレルギーを生じる**ことがある。
- d. 医薬品の中には、鶏卵や牛乳等を原材料として作られているものがあるため、それらに対するアレルギーがある人では**使用を避けなければならない**場合もある。

【5】正解＝3 [a. 正 / b. 正 / c. 正 / d. 誤]

- d. 副作用は、容易に異変を自覚できるものばかりでなく、明確な自覚症状として現れないこともあるので、継続して使用する場合には、特段の異常が感じられなくても医療機関を受診するよう、医薬品の販売等に従事する専門家から促していくことも重要である。

【6】正解＝3 [a. 正 / b. 誤 / c. 正 / d. 正]

- b. 青少年は、薬物乱用の危険性に関する認識や理解が必ずしも十分でなく、好奇心から身近に入手できる薬物を興味本位で乱用することがあるので、**注意**が必要である。

【7】正解＝1 [a と b が正しい]

- c. 複数の医薬品を併用した場合、又は保健機能食品や、いわゆる健康食品を含む特定の食品と一緒に摂取した場合に、医薬品の作用が**増強**したり、**減弱**したりする。
- d. 相互作用には、医薬品が吸収、分布、代謝又は排泄される過程で起こるものと、医薬品が**薬理作用**をもたらす部位において起こるものがある。

【8】正解＝4 [a. 誤 / b. 正 / c. 誤 / d. 誤]

- a. 酒類（アルコール）をよく摂取する者では、肝臓の代謝機能が高まっていることが多い。その結果、肝臓で代謝されるアセトアミノフェンなどでは、通常よりも代謝されやすくなり、体内から医薬品が速く消失して**十分な薬効が得られなくなる**ことがある。
- c. 食品として流通しているハーブ等の場合は、そうした食品を合わせて摂取すると、生薬成分が配合された医薬品の効き目や副作用を**増強させる**ことがある。
- d. 外用薬や注射薬であっても、食品によって医薬品の作用や代謝に**影響を受ける可能性**がある。

【9】正解＝5 [a. 誤 / b. 誤 / c. 正 / d. 正]

- a. 小児は、大人と比べて身体の大きさに対して腸が長く、服用した医薬品の吸収率が相対的に**高い**。
- b. 小児は、肝臓や腎臓の機能が未発達であるため、医薬品の成分の代謝・排泄に**時間がかかる**。

【10】正解＝4

- 乳児：生後4週以上**1歳未**満
- 幼児：1歳以上**7歳未**満
- 小児：7歳以上**15歳未**満

【11】正解＝3 [a. 正 / b. 誤 / c. 正]

- b. 高齢者であっても基礎体力や生理機能の衰えの度合いは個人差が**大きく**、年齢のみから一概にどの程度リスクが増大しているかを判断することは**難しい**。

【12】正解＝2

- 2. 胎盤には、胎児の血液と母体の血液とが混ざらない仕組み（**血液 — 胎盤関門**）がある。

【13】正解＝3 [a と d が正しい]

- b. 医療機関での治療は特に受けていない場合であっても、医薬品の種類や配合成分等によっては、特定の症状がある人が使用するとその**症状を悪化させる**おそれがある等、注意が必要なものがある。
- c. 医療機関・薬局で交付された薬剤を使用している人については、登録販売者において一般用医薬品との**併用の可否を判断することは困難**なことが多く、その薬剤を処方した**医師**若しくは**歯科医師**又は調剤を行った**薬剤師**に相談するよう説明する必要がある。

【14】正解＝1 [a. 正 / b. 正 / c. 誤 / d. 誤]

- c. プラセボ効果によってもたらされる反応や変化には、望ましいもの（効果）だけでなく、**不都合なもの（副作用）**もある。
- d. プラセボ効果は、主観的な変化だけでなく、客観的に**測定可能な変化として現れる**こともあるが、不確実であり、それを目的として医薬品が使用されるべきではない。

— 午前の部 —

〔医薬品に共通する特性と基本的な知識〕

【1】医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a. 人体に対して直接使用されない医薬品は、人の健康に影響を与えることはない。
- b. 医薬品は、人の疾病の診断、治療若しくは予防に使用されること、又は人の身体の構造や機能に影響を及ぼすことを目的とする生命関連製品であるが、使用に際して保健衛生上のリスクを伴わないものである。
- c. 医薬品の有効性、安全性等に関する情報は、知見の積み重ねによって集積されていく。

	a	b	c
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 正	正	正
	2. 正	誤	正
	3. 正	誤	誤
	4. 誤	誤	正
	5. 誤	正	誤

【2】医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a. 一般用医薬品は、医療用医薬品と比較し、保健衛生上のリスクが相対的に低いため、市販後の有効性、安全性に関する情報の収集は不要とされている。
- b. 医薬品は、効能効果、用法用量、副作用等の必要な情報が適切に伝達されることを通じて、購入者が適切に使用することにより、初めてその役割を十分に発揮するものである。
- c. 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（昭和35年法律第145号）では、健康被害の発生の可能性があるときに限り、異物等の混入、変質等がなくてはならない旨を定めている。
- d. 少量の医薬品の投与であっても発がん作用、胎児毒性や組織・臓器の機能不全を生じる場合がある。

	a	b	c	d
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 正	正	誤	正
	2. 誤	誤	正	正
	3. 正	誤	誤	誤
	4. 誤	正	誤	正
	5. 誤	誤	正	誤

【3】新規に開発される医薬品のリスク評価に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a. ヒトを対象とした臨床試験における効果と安全性の評価基準として、国際的にGood Laboratory Practice (GLP)が制定されている。
- b. 薬効-薬理試験や一般薬理作用試験の他に、単回投与毒性試験、反復投与毒性試験、生殖・発生毒性試験、遺伝毒性試験、がん原性試験などの毒性試験が厳格に実施されている。
- c. 医薬品と食品に要求されている安全性基準は同一である。

	a	b	c
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 誤	誤	正
	2. 正	誤	誤
	3. 誤	正	誤
	4. 正	正	誤
	5. 誤	正	正

【4】いわゆる健康食品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a. 医薬品の誤った使用方法により健康被害が生じることがあるが、いわゆる健康食品でも誤った使用方法により健康被害が生じることがある。
- b. 医薬品を扱う者は、いわゆる健康食品が法的にも、また安全性や効果を担保する科学的データの面でも医薬品とは異なるものであることを認識し、消費者に指導・説明を行わなくてはならない。
- c. いわゆる健康食品には、カプセル、錠剤等の医薬品と類似した形状のものはない。

	a	b	c
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 誤	正	正
	2. 正	正	誤
	3. 誤	誤	正
	4. 誤	正	誤
	5. 正	誤	正

医薬品に共通する特性と基本的な知識

【1】正解＝4 [a. 誤 / b. 誤 / c. 正]

- a. 人体に対して使用されない医薬品についても、人の健康に影響を与えるものもある。
- b. 医薬品は、人の疾病の診断、治療若しくは予防に使用されること、又は人の身体の構造や機能に影響を及ぼすことを目的とする生命関連製品であり、その有用性が認められたものであるが、使用には、保健衛生上のリスクを伴う。

【2】正解＝4 [a. 誤 / b. 正 / c. 誤 / d. 正]

- a. 一般用医薬品は、市販後にも、医学・薬学等の新たな知見、使用成績等に基づき、その有効性、安全性等の確認が行われる仕組みになっており、それらの結果を踏まえ、**リスク区分の見直し**がされる。
- c. 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律では、**健康被害の発生の可能性の有無にかかわらず**、異物等の混入、変質等がある医薬品を販売等してはならない。

【3】正解＝3 [a. 誤 / b. 正 / c. 誤]

- a. ヒトを対象とした臨床試験の実施の基準には、国際的に **Good Clinical Practice (GCP)** が制定されている。
- c. 医薬品については、食品などよりもはるかに**厳しい安全性基準**が要求されている。

【4】正解＝2 [a. 正 / b. 正 / c. 誤]

- c. いわゆる健康食品には、その多くが摂取しやすいように**錠剤やカプセル等の医薬品に類似した形状**で販売されている。

【5】正解＝1 [aとbが正しい]

- c. 医薬品が人体に及ぼす作用は、**すべてが解明されているわけではないため**、十分注意して適正に使用された場合であっても、**副作用が生じることがある**。
- d. 副作用は、眠気や口渇等の**比較的良好に見られるもの**から、日常生活に支障を来す程度の健康被害を生じる重大なものまで**様々**である。

【6】正解＝1 [a. 正 / b. 正 / c. 誤 / d. 正]

- c. アレルギーは、一般的にあらゆる物質によって起こり得るものであるため、医薬品の薬理作用等とは関係なく起こり得るものであり、内服薬だけでなく**外用薬**等でも**引き起こされることがある**。

【7】正解＝4 [a. 正 / b. 正 / c. 誤]

- c. 一般用医薬品にも習慣性・依存性がある成分を含んでいるものがあり、一度、薬物依存が形成されると、そこから離脱することは**容易ではない**。

【8】正解＝1 [aとbが正しい]

- c. 外用薬や注射薬であっても、食品によって医薬品の作用や代謝に影響を受ける**可能性がある**。
- d. 複数の疾病を有する人では、疾病ごとにそれぞれ医薬品が使用される場合が多く、**医薬品同士の相互作用**に関して特に**注意が必要**となる。

【9】正解＝5

小児は大人と比べて、身体の大きさに対して腸が**長く**、服用した医薬品の吸収率が相対的に**高い**。また、血液脳関門が未発達であるため、**中枢神経系**に影響を与える医薬品で副作用を起こしやすい。

【10】正解＝3 [a. 誤 / b. 正 / c. 正 / d. 誤]

- a. 一般に高齢者は生理機能が衰えつつあり、特に、肝臓や腎臓の機能が低下していると医薬品の作用が**強く**現れやすい。また、若年時と比べて副作用を生じるリスクが**高くなる**。
- d. 高齢者であっても基礎体力や生理機能の衰えの度合いは**個人差が大きく**、年齢のみから一概にどの程度リスクが増大しているかを判断することは**難しい**。

【11】正解＝2 [aとcが正しい]

- b. 胎盤には、胎児の血液と母体の血液とが混ざらない仕組み（血液 — 胎盤関門）があるが、母体が医薬品を使用した場合に、血液 — 胎盤関門によって、どの程度医薬品の成分の胎児への移行が防衛されるかは、**未解明のことも多い**。
- d. 一般用医薬品においても、多くの場合、妊婦が使用した場合における安全性に関する評価が**困難**であるため、妊婦の使用については「**相談すること**」としているものが多い。

【12】正解＝5 [a. 正 / b. 正 / c. 誤]

- c. プラセボ効果は、主観的な変化だけでなく、客観的に測定可能な変化として現れることもあるが、**不確実**であり、それを目的として医薬品が**使用されるべきではない**。

【13】正解＝3 [a. 正 / b. 正 / c. 誤 / d. 正]

- c. 表示されている「使用期限」は、**未開封状態**で保管された場合に品質が保持される期限であり、液剤などでは、いったん開封されると記載されている期日まで品質が保証されない場合がある。

【14】正解＝4

医薬品のうち、その効能及び効果において人体に対する作用が**著しくないもの**であって、薬剤師その他の医薬関係者から提供された情報に基づく**需要者**の選択により使用されることが目的とされているもの（**要指導医薬品**を除く。）をいう。

【15】正解＝1 [a. 正 / b. 誤 / c. 正]

- b. 症状が重いつき（例えば、高熱や激しい腹痛がある場合、患部が広範囲である場合等）に、一般用医薬品を使用することは、一般用医薬品の役割にかんがみて、**適切な対処とはいえない**。

登録販売者試験 問題集
令和7年版 中国・四国編

■ 発行所 株式会社 公論出版
〒110-0005 東京都台東区上野3-1-8
TEL (販売) 03-3837-5745
(編集) 03-3837-5731

■ 定 価 1 8 7 0 円 (税込)

■ 発行日 令和7年1月15日

ISBN978-4-86275-310-6